

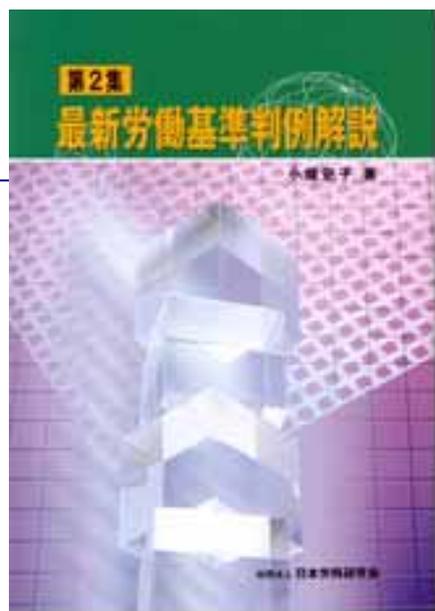
## 筆者からのメッセージ

# 最新労働基準判例解説

## 第2集

法律の勉強は条文を読めば足りると考えるのは、大きな誤りです。法律に書かれていない一般的な原則があることもその理由ですが、何より重要な理由は、裁判例を勉強しなければ、日常的に起こる事象の中で現実に法律がどのように機能しているかを具体的に理解することができず、また法律の条文が不在の事柄についても裁判例の蓄積により秩序が作られ長く通用している場合も多いので、それを知らずに法律を学んだとは到底いえないということです。時代の変化のスピードが速い現代において、立法や法改正により法律の条文が登場するのは、社会問題が発生してしばらくたった後であることがほとんどです。その間、被害を被った者が裁判所に救済を求めた場合、裁判官が既存の法律の条文を駆使して判決を書くこととなります。それが判例法理の形成に結びつくこともあり、また立法に結びつくこともあります。それゆえ、最新の裁判例を読み、規範形成や立法のシーズをチェックすることが必要となります。

本書では、労働者と使用者をめぐる裁判例のうち、重要性が高く判例形成につながる最新のものを厳選



し、解説を加えました。労働者と使用者をめぐる裁判例も、時代の変化の中で少しずつ様変わりしています。プライバシーが注目されたり、健康への関心が強まったりという社会の変化を受けて、それらに関連する裁判例が登場しています。また、雇用社会における中途採用の増加や知的財産権の重要性の高まりを反映して、中途採用者に関する裁判例や知的財産権をめぐる裁判例が増加しています。それらを含めながら、古くからの典型的な事件についての裁判例も加え、賃金、労働時間、人事、労働災害、解雇等のあらゆる項目についての裁判例をバランスよくリストアップし、最新の裁判例・学説等の情報を踏まえて解説を加えています。雇用や労働をめぐる判例の「今」を切り取り、正確に理解することに役立てていただければ幸いです。

京都大学地球環境大学院准教授  
小畑 史子